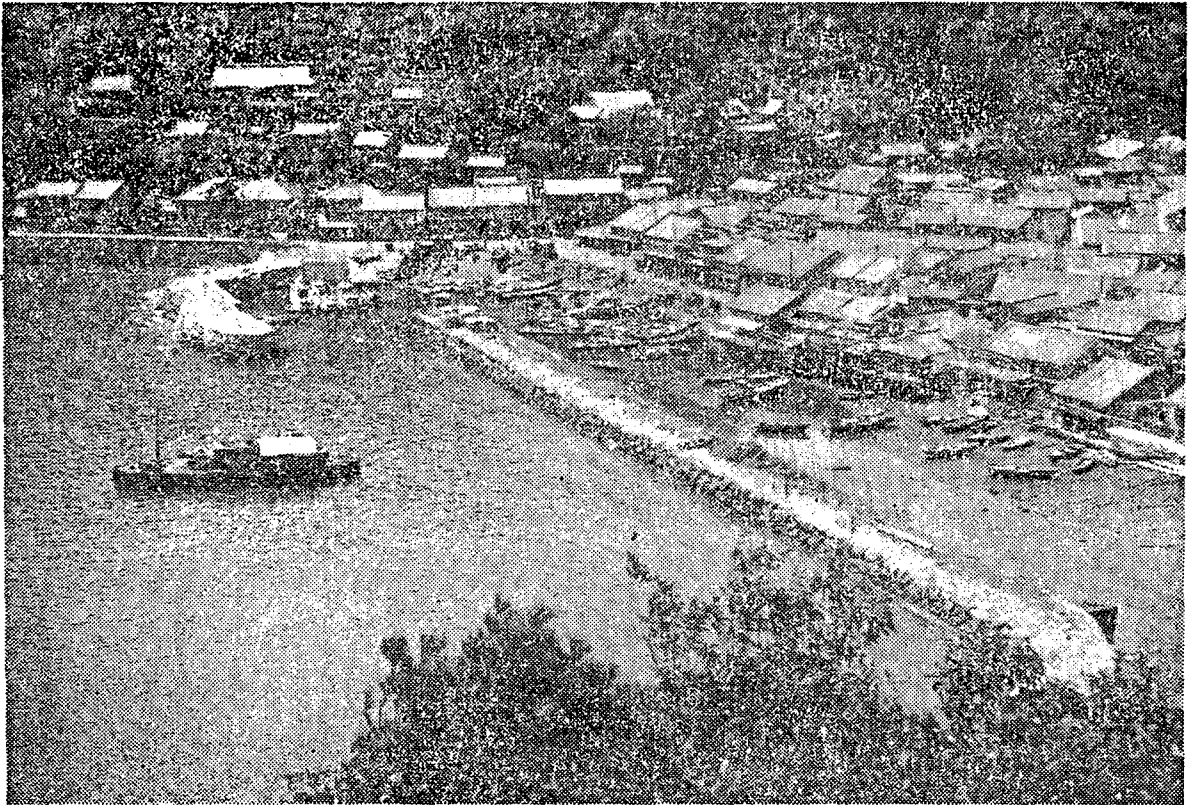


拓水

八月



兵庫県漁業協同組合連合会

第二卷

第十二号

昭和三十三年八月十五日発行

(月刊毎月一回十五日発行)

一部十円

合成繊維まかり通る

水産庁のパンフレットから

合成繊維の普及はすばらしいものがある。本年六月に水産庁生産部水産課が出した「昭和三十一年度、合成繊維漁網の現況」というパンフレットによると、昭和三十一年度には一四八五万ポンドのカセン（化繊）が漁業用に使われた。これは前年度に水産庁が予想した量（一三四二万ポンド）を一割以上うまわった。またカセン網の耐久力を考えると、漁網の約六割がカセンに変わったと考えられるという。

この急速なカセン網の普及の有様を水産庁発行のパンフレット（前記）から、ダイジェストしてみよう。

綿網との差、ちぎむ

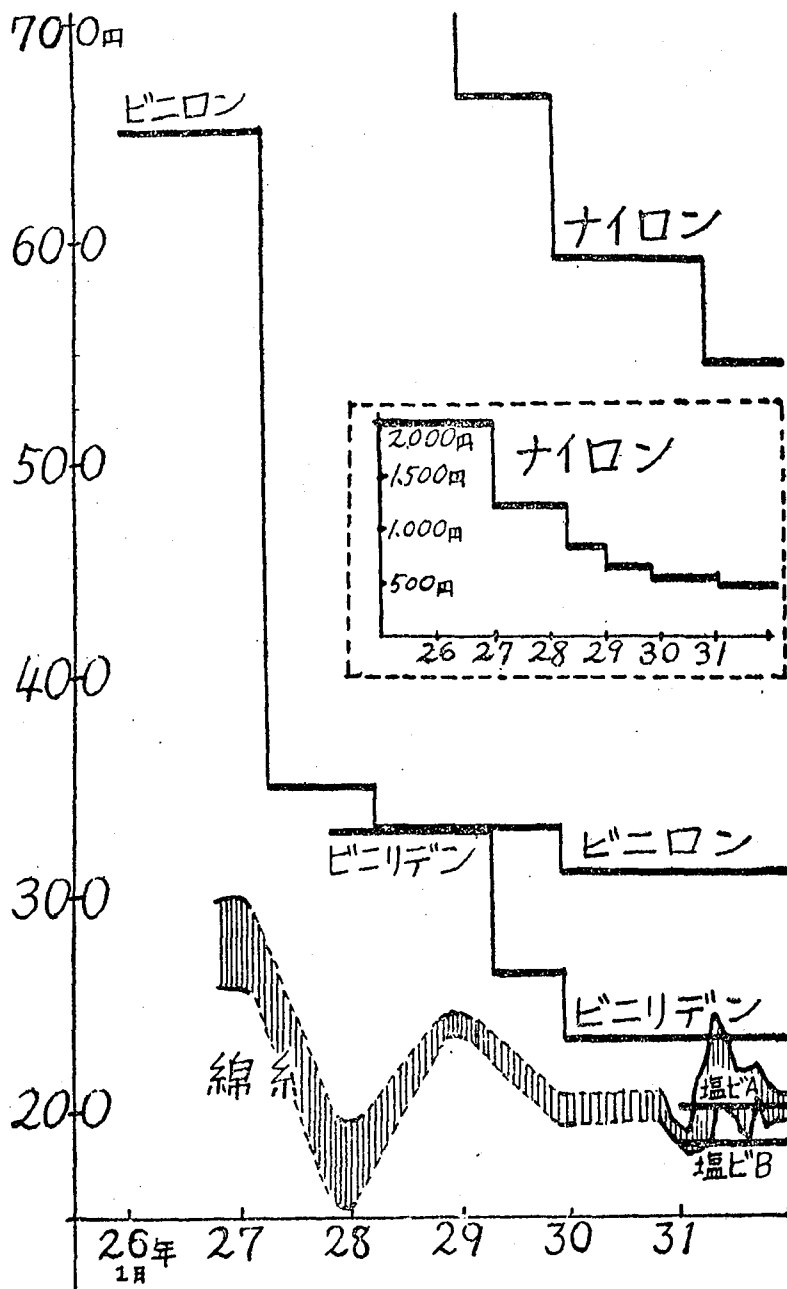
カセンは丈夫だが、高いというのが定評だった。昭和二五年ごろはナイロン漁網は綿漁網の十倍の値がした。したがって極く特殊な場合（ナイロンの特長がもっとも強い）かすことができるような方面へしか進出できなかった。今でもナイロンは

一番高い。しかし綿糸網の二・五倍ほどである。耐用年数のちがいを考へるとほぼ匹敵するくらいのネダンになったのだ。

諸式のネダンが毎年のように上

ても安くならないのに、カセンのみが年々安くなるのは、生産設備（工場）がふえたからである。生産設備がふえ、マスプロ（大量生産）によってネダンが安くなる。生産技術が

すすみ、品質がよくなる。漁業者の方もカセンの性質をよくのみこみ、それぞれの性質にあわせてカセンを使いわけようになった。かつてのように、カセンを何でもかでも十パひとからげにナイロンというようなことはなくなった。ビニロンはビニロン、サランはサランと使いわけようになり、使用量がふえた。その結果、ネダンが安くなった。では、どれだけ安くなったか。



第1回 漁業用合成繊維原糸の価格の動き (昭和26~31年)
規格、綿糸 20番手ナイロン 210D、ビニロン、20番手ビニリデン 1000デニール、塩ビ、A260D、B450D、(単位・ポンド)

グラフを見て下さい。最初は原糸のネダンである。綿糸は相場取引だから、毎日のようにネダンが動くので安値・高値のはばがある、カセンの方はメーカーの建値制であるので、ネダンはカイダンの的に動くというちがいがあがるが、両者ともだんだん安くなる傾向がみられる。もっとも綿糸は外国の綿花の作柄に支配されるので今後も安値がつづくかどうかは全くわからない。

ナイロンは三一年二月の値下げで漁業用(二一〇デニール)の製網業者引取価格がポンド五四〇円である。これは昭和二五十六年にくらべて七割三分の値下がりだ。ビニロンは二九年十二月の建値三一〇円(二〇番手)のままだが、品質の改善で約二割強くなったので実質的な値下がりといえる。ビニリデンは二九年十二月の建値二三〇円(一〇〇〇デニール)は今後はあまり動かないとみられている。三十一年から登場した新しい繊維、塩ビ(塩化ビニール)は二〇五円(二六〇デニール)、一八〇円(四五〇デニール)と綿糸なみの安さで、量産に入れば値下げも期待できるといふ。

以上は、原糸についての話だが、漁網の値段となると少し事情がちが

う。もちろん原糸が安くなれば、網も安くなるのだが、その比率は同じでない。これはカセン網の編網技術が高度なものと、カセン網の耐用年数が高いので、回転がわるいためらしい。しかし比較的加工の容易なビニロン網は競争がはげしく弱ふくみだ。

網の価格の動き (蛙又、4本8節) 単位：円

	25年3月	27年4月	28年4月	29年4月	30年6月	31年6月
ナイロン	27,000	16,800	11,100	9,750	9,180	9,150
ビニロン	6,100	5,370	5,062	5,062	5,550	5,550
綿糸	2,784	3,300	3,100	3,100	3,000	3,540

この価格は、東京都内の漁網会社の平均である。ビニリデンは細物はほとんど生産されないのので、表から除外されている。

飛躍的な増産ぶり

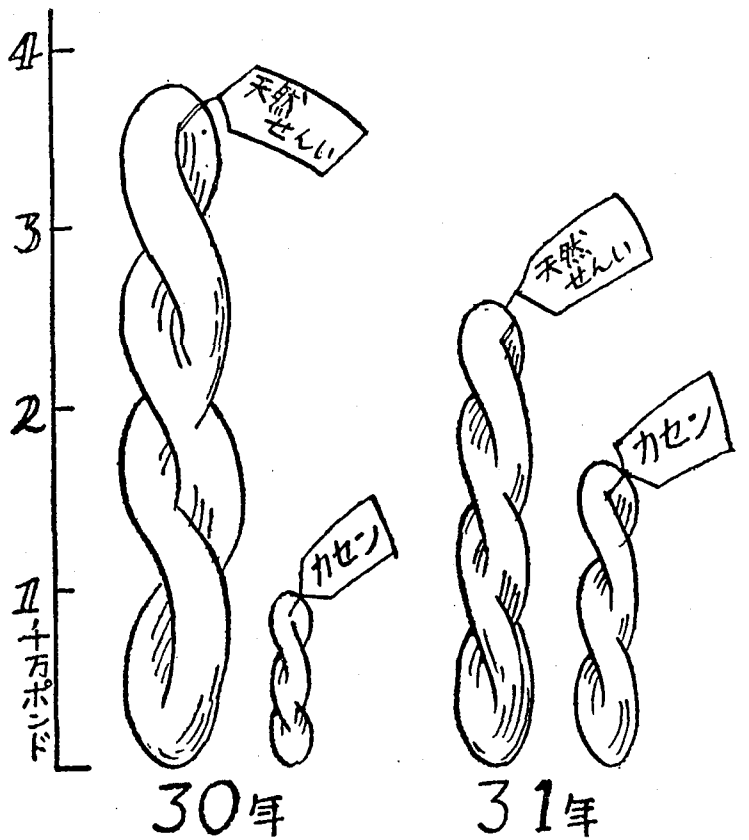
このように年とともに値下げしながら、カセン原糸メーカーはすばらしい景気である。それは設備拡大によって生産量がスバシク増大したからだ。カセン原糸全体の生産量は、昭和三十一年中に約六三三四万ポンド、前年にくらべて八三%の増加、二倍に近い増え方である、種類別にも、ナイロン、九〇%、ビニロン七四%、ビニリデン五四%と、ほぼそろった増加ぶりだ、この他に三十一年からの新顔として塩ビ(塩化ビニール)とアクリルがある。(アクリルは漁業なし)

このうち漁業用の網やロープにむけられた量は約一七〇五万ポンドで全体の四分の一以上。種類別にみれば、ナイロン(長繊維)―生産二二七五万ポンドのうち漁業用五二三万ポンド、二三%
 ビニロン―二二三四万ポンドのうち八六九万ポンド、三六%ビニリデン―五一九万ポンドのうち二六七万ポンド、五一%塩ビ―八一万ポンドのうち四六万ポンド、五六%
 となり、ネダンの安い繊維ほど漁業の割合が多いことがわかる。また漁業者がカセンメーカーの大事なお得

目次

合成繊維まかり通る……………	1
泉水試 川越敬一……………	1
対馬の漁業事情……………	4
泉水産課 森本勝己……………	4
漁業協同組合の歌……………	10
全漁連で募集……………	10
ラジオ神戸……………	10
農漁村の番組……………	10





第2図 漁業用(網とロープ)に使われた天然繊維と合成繊維の量

意さんであることもわかる。次に漁網の側からみると、三十一年中に漁蓋(ロープを含む)の原料に使われた原糸は天然繊維が二五七八万ポンド、カセンが一七〇五万ポンド、計四二八三万ポンドで、なお天然繊維の方が多く、前年に比較すると、天然繊維が一三三万ポンド減ってカセンが七〇八万ポンド増え合計では五二〇万ポンドの減少となる。いわばそれだけカセンが天然繊維の領分にくいこんだわけだ。天然

繊維の主力は綿糸であり、絹、マニラ麻、亜麻、おま、などはごく限られた量であるから、それだけ綿糸の輸入が少なくなったわけで、わが国の貿易帳尻の改善にも相当役だったということができる。漁業用のカセン原糸一七〇五万ポンドからは、漁網一三四万ポンド、ロープ二五四万ポンド(混紡を含む)がつくられた。これを前年の漁網八六三万ポンド、ロープ五七万ポンドと比較すると、とくにロープ

への進出がめだつ。しかしカセンロープはまだまだ生産量が少く、ロープ全体の一割余である。カセンのロープへの進出はようやく始ったばかりで、数年前のカセン網のような立場にあるとみてよく、今後の伸びが期待されるのである。

蛙又はナイロン

次にカセンの種類別にしらべてみると、カセンとして一番先輩格に当るナイロンがやはり着実に伸び、網で一〇%増、ロープで五・三倍にふえた(前年比)。ナイロンで目につくのは蛙又は圧倒的に多いことで網の九八・二%を占める。ナイロンにくらべると、ビニロンの飛躍はすばらしく、九四・一%とほとんど二倍の増加で、ロープは前年の四・六倍。網の種類はさまざまだが、本目が五一・二%、ついで蛙又、無結節、モジ網の順となる。ビニリデンは、七一・二%の増加だが、網で六五・四%、ロープで七一・四%の伸び方。無結節網が多く、網の七一・九%を占めるのが特長といえよう。

三一年から生産に入った塩ビは綿糸なみのネダンを看板に、たちまち先輩の仲間入りをしたが、四二万ポ

ンドの生産のうち、網が七七・五%、ロープが二二・五%とロープへの食込みがめだつ。網の種類は無結節蛙又の順で他のものは今のところない。

混撚糸も、この年に大きくのびた、これは「旭鱗」のように、ビニロン、ビニリデンの特長をうまくあわせた糸が市場へ出たため、前年にくらべて六・三倍の増加ぶりである。全部、蛙又につくられ、輸出向も多い(生産量の二三・六%)

斜陽族の綿糸

カセンの伸びた反面、天然繊維が落ちめになるのは当然だが、その実態をやや詳しくみると、天然対合成の比率は前年に七九対二一が、三一年は六〇対四〇に接近している。さらにこれを主要な生産会社についてみると、天然対合成の比がすでに逆転していて、網では二二対七八、ロープでは三一対六九である。これはカセンの網やロープは優秀な設備と熟練工を必要とするので有力工場がまず手をつけ、設備を拡大していることを示すものである。したがってかつての漁網原料の王者たる綿糸は一流工場ですでに二次的材料であり、二流・三流の網屋がもっぱ

ら綿糸網をつくるという有様になつてきている。綿糸にくらべると、マニラ麻の方はまだまだ地盤が固いが、それもここ一二年のうちであるろう。

底曳網のように大量にロープを使う場合はともかく、船具用ロープとしてはマニラ麻にくらべて、ナイロンロープがはるかにすぐれており、ある場合には経済的にもまさっているからである。ナイロンロープはマニラロープにくらべて軽くて強く、ぬれても固くならず取扱いが楽である。とくに重要なのは信頼度が高いことで、まず海運用のロープはほとんどナイロンにきりかえられ、捕鯨用、曳船用などもナイロンが採用されている。

(文責、県水試、川越敬一)



対馬に調査団派遣

県外出漁協会の機能強化のため、近く挙県一致の体制を整えることとなつたが、これに先立つて、協会では兵庫丸の協力を得て、長崎県対馬海域へ調査団を派遣した。従来も調査団が出されていたが、主として淡路島関係者が中心となつていたので、今回は淡路は勿論、摂津・播磨・但馬の漁民代表、市町村水産担当者等をも含め総数十五・六名で構成されている。一人でも多くの人達に見聞して貰うため、ハミリ映写機も携行したので、調査団が帰つて来たら、県下各地で報告座談会、映画会等が行われる予定で、その成果が期待されている。

- 調査団スケジュール
- 三日 兵庫丸津居山出港
 - 四日 内海班神戸出発
 - 五日 下関にて内海・但馬両班合流兵庫丸にて厳原へ
 - 六日 対馬支庁訪問、芦ヶ浦根拠地施設視察、出漁者坂東勝一氏と懇談
 - 七日 竹敷・水崎に寄港周辺調査小綱にて出漁者平岡安民氏と懇談
 - 八日 小綱より西海岸を北上、西泊に到着、周辺調査
 - 九日 西泊発下関着調査団解散
 - 十一日 兵庫丸津居山港に帰着
- (八月八日記)

対馬の漁業事情

県水産課 森 本 勝 己

わずか四・五日の滞在で、見聞記を書くなど、まことにおこがましいことですが、本誌編集子のたつてのおすすめに、対馬出漁の一助にもなれば幸いです。最近の現地の漁業事情などについて、見たり、聞いたりしたことをお伝えしましょう。対馬方面の紹介及び出漁協会から「対馬」とはどんなところ

さて、話の順序として、対馬とはどんなところか一寸のぞいてみましょう

しんきしんきと山道行けば
笠に木の葉が散りかかる

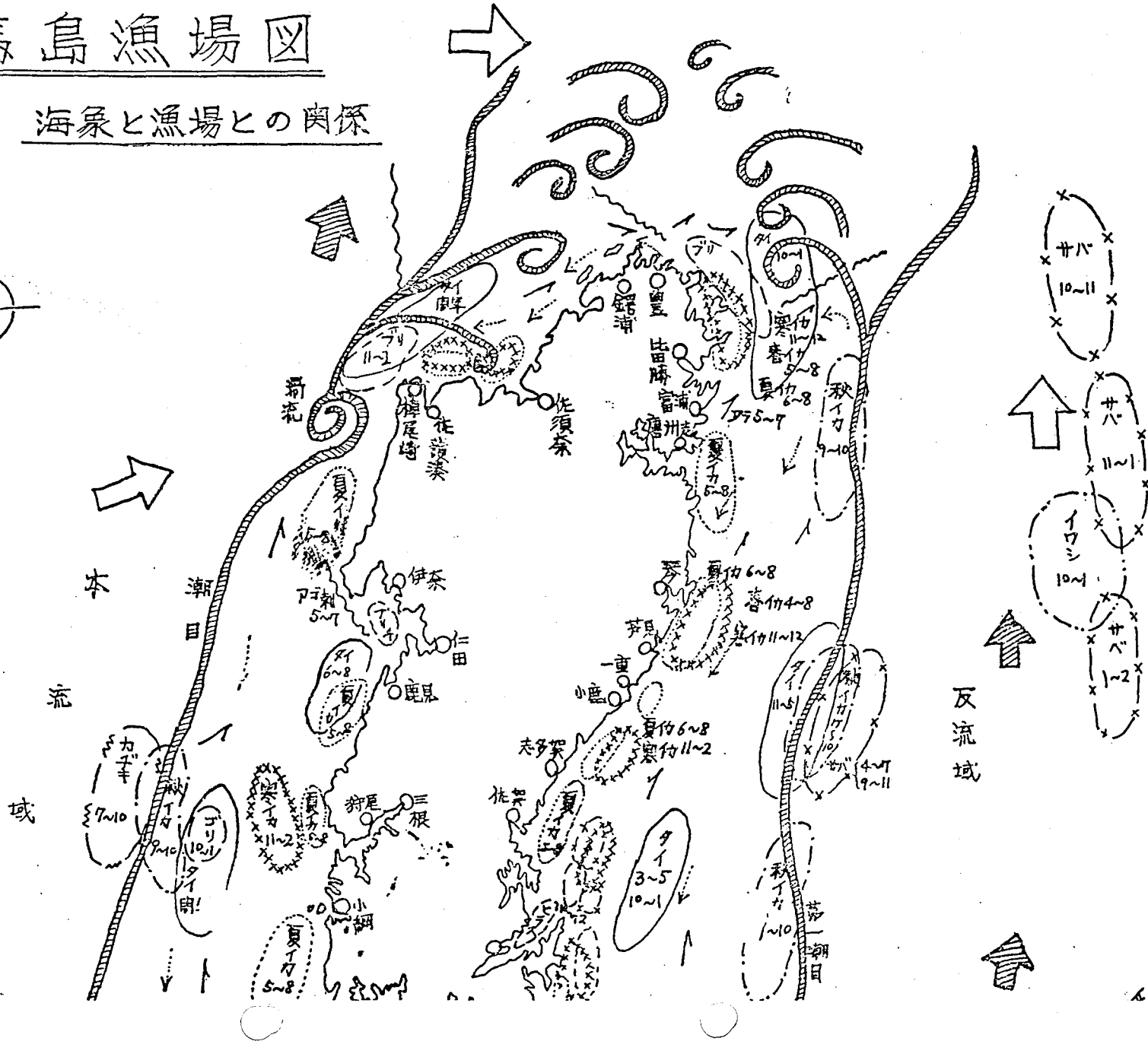
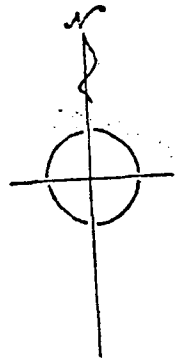
これは、対馬の代表的民謡「しんき節」の一節ですが、これからも想像されるとおり、対馬は山又山の島で、それがおおかた岩ばかりだから、南北十八里東西四里のこの島の陸上交通は、頗る不便で念仏峠とか、嗚呼難儀坂(あなぎざか)などという恐ろしいような地名が残っております。また全島を縦貫する道路は完成していませんが、国土総合開発特定地域の指定をうけて、長

馬出漁三カ年のあゆみ」或は、「対馬・彦岐・五島列島出漁の概要」として、相当詳しく報告されておりますので、それを御覧になつた方々には、幾分重複する点もあるかと思いますが、あしからず御容赦願いたいと存じます。

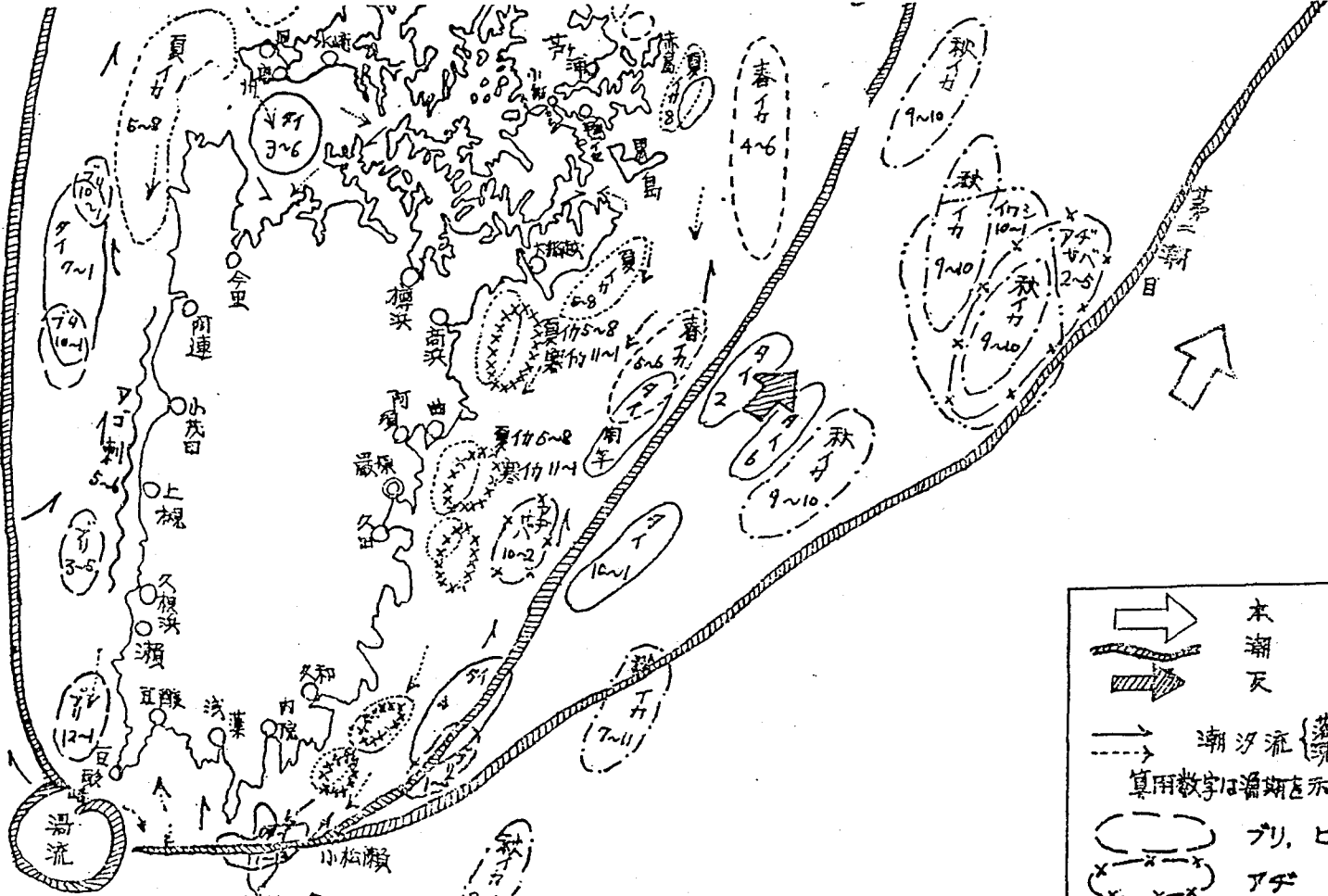
崎県でも盛んに道路に力を入れておりますから、二三年の内には、バスが全島を走るようになることでしょう。このように山が多く、道路も十分でないので、文化も経済も産業も又島民の生活も非常に立ち遅れていることも事実です。しかしながら、島の表情は、私たちがこちらで想像していたよりは、遙に明るく感じられました。今問題の季承晩ラインに一番近いところ(島の北端)は、約七哩位しか距離がありませんが、島の人々は、それ程気にもしてないようです。勿論水産の上からいえば、死活にかかると重要な問題にはちがいませんが、毎日のこととなると、却つて馴れてしまつて、少くとも表

対馬島漁場図

海象と漁場との関係



一本釣 ブリ 12~6
 一本釣 ヒラス 11~4
 釣付 ブリ 8~12
 ヒラス 9



	本潮流	流目流
	戻潮流	流
	潮汐流	落潮 漲潮
	算用数字は満潮を示す	
	ブリ, ヒラス	
	アヂ サバ	
	春 イカ	
	秋 イカ	
	夏 イカ	
	冬 イカ	
	カジキ	
	タ イ	
	イワシ	
	アゴ 刺網	

而上はそのように感じられるのかも知れません。島の広さは、七〇三平方料で、淡路島が五九四平方料ですから、対島の方が約一〇〇平方料程広いこととなりますが、人口は、淡路島が約二六万人といわれており、対島のそれは、約七万人ですから、人口密度においては格段の相違があるわけです。

この島は、丁度朝鮮と九州の真中にありますから、緯度からいえば相当寒さも厳しい筈ですが、名のおり対馬暖流に洗われているので、比較的温暖であるとのこと。一月が最も寒くて、平均四乃至五

度程度なのですが、離島の常として冬の季節風は仲々強く、冬を中心とする前後の気象状況が、漁業の盛衰を左右するといわれております。

産業の首位は、いうまでもなく水産であります。水産の次には林産ですが、これは木材というよりも薪炭材が主です。松や杉は殆んどなく、見渡す限り雑木ばかりです、この外亜鉛・鉛等の鉱産が若干あります。

汽船が博多港を出て、この島に向う途中、嵯岐の島に寄りますが、嵯岐は一見したところ淡路と同じ感じをうけます。山も低く、松や杉も沢

山見受けられ、田畑も相当拓かれております。そして何よりも道路の整備しているのにビックリします。従つてバスの便もよく、車窓からみる風物も淡路をつくりで、玄海灘の真只中にある離島に何たようには思われません。私たちは、一口に嵯岐・対馬と呼んでいますが、二つの島は内容的には相当開きがあるように思えます。

対馬のイカ釣り

漁場図をみてもわかるように、対馬暖流の影響をうけて、この島の附近は変化の多い潮目をつくっている。

このため、各種の魚類、中でも表層中層魚は、この潮境線に囲まれた箇所に適所を求めて滞留するので、島の周辺は絶好の漁場となつています。

終戦後、朝鮮沿岸からの閉め出しにより、この島の上対馬町一重、比田勝方面は日本一のサバ漁場といわれるようになり、昭和二十八年対馬支庁の調査によると、東沿岸のイワシ、サバ、アジの漁獲高は二、〇〇〇万貫、三〇億円にも達しています。しかし、これらの漁獲は、いずれも島外のきん着網船団によるもので、島内に落ちる金は漁獲高の一割

にも達しなかつた。そして、このきん着網船団も、昭和二十八年を頂点として、サバ群の日本海方面への移動により入漁が著しく減つて、サバ景気は今では昔の語り草となつています。このように、サバ景気が湧き返つてくるときでも、総数一〇二統

のきん着網の中、対馬漁民自らの経営によるものは僅か二統にしかすぎなかつたそうで、地元漁民の殆んどはイカ一本釣り漁業に依存していたのです。従つて、アジ、サバがいなくなつた現在、対馬の経済を支配するものは、島民によるイカ漁業になつております。

更に、対馬支庁の調査をのぞいてみると、昭和三十一年度の全島水揚げ高は、イカ二八〇万貫、ブリ八〇万貫、タイ二〇万貫、雑魚二〇〇万貫、海そう一〇〇万貫、貝類一〇〇万貫合計六九〇万貫となつております。同支庁の話では、イカの漁獲高は、統計面では平年二五〇万貫から三五〇万貫程度になつているが、統計面に現れないでスルメに加工するもの、五〇〇隻以上に及ぶ他県からの出漁船の水揚げ、沖積して直送するもの等を推定すれば、その実数は五〇〇万貫をはるかに上廻るものといつていい。本県の瀬戸内海におけ

るカククチイワシの平年漁獲高が二〇〇万ないし三〇〇万貫であること、そして漁民数の圧倒的な開きなどを併せ考えてみると、対馬のイカ資源の豊富なこと、又漁家収入に占める重要性等が容易に推察されま

す。対馬におけるスルメの生産は、昔から有名で、「対州スルメ」と称されて「北海スルメ」に次ぐ生産があります。殊にケンサキスルメの品質は全国一と長崎県では自慢している。漁期を大雑把に分けると、ケンサキイカが三月から九月、スルメイカが十月から翌年の二月までとなつており、殆んど周年イカ釣りをすることができます。

四・五月はやや低調のようですが、その他はいつでもイカが容易に釣れるらしく、その漁場も図面にあらとあり、対馬全島の沿岸に及び、ホンの地元でも釣れますから、漁船も小型のもので結構間に合うようです。地元船の多くは二・五軍程度、大きくてせいぜい三軍までのものが大部分です。ただ写真でも分るようには、小さな船でもデツキ張りとなつており、耐波性については相当考慮されております。

みごとなイカ乾し

二・三年前までは、カーバイトによる集魚灯を使用しておりましたが、次第に発電機が普及し、今では殆どどの船が一乃至三キロ程度の発電機を設備しております。右のように、イカは周年釣れておりますが、殊に冬が盛んです。十一月、十二月はその最盛期となり、漁民は勿論、平素漁業に従事してないような人々まで、競つてイカ釣りをやり、沿岸の人たちは、誰も彼もがイカにかかり切るわけです。男たちが夕方から沖に出て、朝獲物をもつて帰つて来ると、女・子供さては年寄りまで総動員して、これを開いて干すのです。沿岸至るところの漁村に、このイカを干した風景は、仲々見事なものだそうですが、私が島へ行つたのは、五月の末でしたから、残念ながらそれはみられません。しかし、それでもケンサキイカが沢山干場に掛けてありましたので、それから、冬の盛況を容易に想像する事ができました。

島の人たちの話では、イカがよく釣れるときには、夢中になつて釣つていろうちに、獲物で船が沈みそうになつて、ビツクリして止めて帰つたというようなこともあるとのこと。勿論こんなことがそう何度もあるわけではないでしょうが、一人乗りの船でも、一晩に五・六千程度、の稼ぎにはなるらしく、本県の出漁船団の基地になつている芦ヶ浦において、昨年の冬イカだけで一隻当り三〇万乃至三五万円程度の漁獲をしております。昨冬は、全国的にもイカ不漁のため、逆に値段は良かったためらしいが、大体现地では、生一匹四月乃至五月、これをスルメに加工して一匹一〇円程度で取引されております。

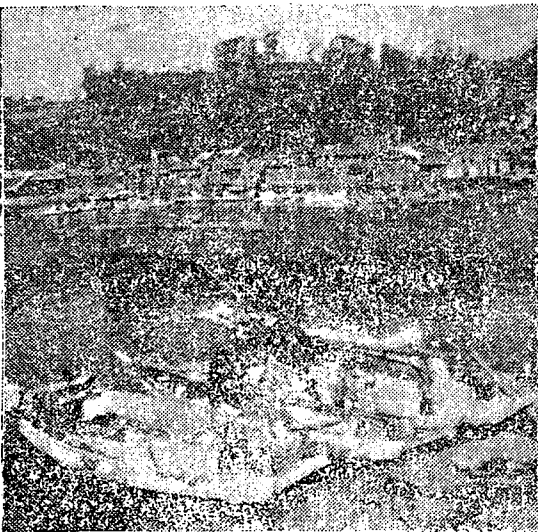
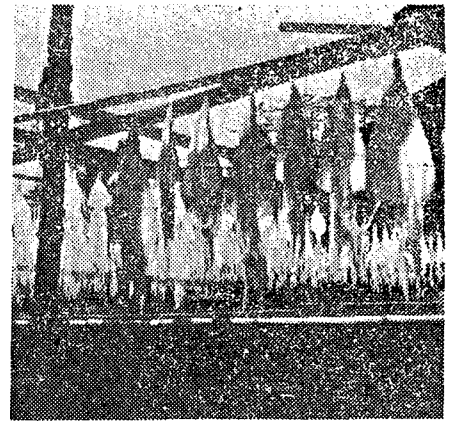
延縄を主目的としております。多くの困難を乗り越え、血の出るような苦心を重ねて、今日ようやく出漁者も対馬の漁場に自信をもつようになつたのではあります。相手がタイであるため、漁場の撰択、餌料の手配、漁船・漁具の整備等は漁獲物の販売などに多くの苦労があるようです。イカ釣りだからといつてこれらのことに全然無関心であつてよいわけではありませんが、少くともタイ延縄よりは漁場・漁具・漁船の面においては比較的苦労が少いように思います。

ただ、生イカだけで販売すれば、半値にしかありませんので、できれば家族を連れて行つて、自家加工することが最も望ましいと思ひます。瀬戸内海の冬は、水温低下のため魚が外津に出て、所謂冬枯れ現象を起すのですが、この時期が対馬では冬イカの本盛期になりますので、タイの延縄と共に、イカ一本釣りも出漁の対象として大いに研究する価値があると考へます。

土地の人たちは、殆んどイカ専門で、余り外の漁業には手を出してないようです。冬イカだけで年間総収入の六・七割を揚げますから、後は春イカ、夏イカ、秋イカというようにイカを追うだけで結構生計が立ちますので、意欲が起きないのかも知れません。イカ以外には、イワシの抄い網、いそ魚建網、延縄、一本釣り、イサリ等をみかけた程度で、運用性の大きな網漁業は首当りませんでした。

他県からの入漁船

対馬及び壱岐を含めて、この海域への出漁船は相当の数に上るものと推察されます。周年多くの魚群が来遊し、滞留するので、勢いこれをねらつて各地から漁船が集るわけですが、その多くは延縄及び一本釣りであつて、網漁業は



(大分県の本一本釣り漁船)

地元側において受入れられないらしい。勿論さきにも書いたように、アジ・サバ群の移動によりきん着船が寄りつかないのではありませんが、島の人たちが網漁業そのものを嫌っているのも事実です。

今回の旅行中、淡路の丸山漁協組所屬の春日丸、我丸、金比羅丸、護神丸及び蛭子丸の五隻に對馬及び壱岐で夫々出会つたのは大変嬉しく思いました。多くの他県船の中に混つた、鮮やかなHGのマークを見出した喜びは、古風な表現ではありませんが、筆舌につくし難い感慨を覚えしました。これらの船は、昨年の秋から今年の二月頃まで、對島にタイ延縄に出漁したもので、淡路のイカナゴ込瀬網の漁期が終ると共に、再び春のタイをねらつてやつてきた人たちでした。冬の出漁はかなりの成績でしたが、今回は余り良くない模様で残念がつていましたが、春の出漁は初めてだから、まあ試験の積りですと、元気に語つておりました。

タイがないのかというと、決してそうではないのです。現にこれらの船と同じ壱岐の勝本港を根拠として、タイ一本釣りをしている大分県の出漁船の模様を聞いてみると、せいぜい一軍前後の一人乗りの小さな

漁船で、一日にタイを一〇貫程度水揚げしており、当地への出漁を非常に喜んでおりました。夕方つたので大分県の船は、三隻が互に舫いをつて食事をしておりましたが、三人共、夫々五〇才を越えた人たちのようでした。こんな小さな船で、しかも相当の年をとつた人が玄海灘を越えてタイを追つて、ここまでやつて来た姿は、何か胸をうつものがあります。

對馬支庁の係官の話では、李ラインの脅威にもかかわらず、年々他県からの入漁船は増加しており、しかも、他県船は漁船・漁具その他の設備も地元船より遙かに優れ、殊に漁業者の操業意慾においては、格段の相違があるので、地元漁民が次第に取り残されていくように思われるとこのことでありました。

こういう氣持が反映してか、最近の對馬海区委員会或は、對馬の漁業組合長会議などにおいては、他県からの入漁船の制限、枠付及びイカ釣りの火光制限などを要望する声が相当高いようです。長崎県当局が、どういう地元漁民の要請に対して、どのような措置をとられるか、我々としても無關心ではありえませんが、對馬の漁業資源、殊に延縄、一本釣り

漁業の資源については、私たち瀬戸内海の者からみると、殆んど無尽蔵のようにさえ思えるのですが、このようなものにさえ、何等かの制限が加えられるかす知れぬということ、穩かではありませんが、反面、それだけ他県の入漁船が多く、操業意慾も昂いことを裏書きしているものといえましよう。

坂東さんと平岡さん

さきにも一寸ふれましたように、美津島町芦ヶ浦には、本県の出漁船団の基地があります。昭和二十七年淡路島を中心として、盛り上る出漁熱によつて、早急に對馬に根拠地を設定する必要が叫ばれ、同年九月芦ヶ浦に宿舎、浴場、便所、炊事場及び井戸等を含めて約七〇万円をもつて根拠地が建設されたのでした。

そのうち、早くも五カ年の歳月が流れました。今ここで、過去、五年間の苦難に満ちた出漁の歴史を振り返つて、お話しするつもりはありません。しかし、出漁の初期から、現地に移住して、多くの困難と闘いながら、一歩々々前進しておられる坂東さんと、平岡さんのことを少し御紹介したいと思ひます。

坂東勝一さんは、淡路南淡町福良の出身です。昭和二十七年の初出漁のときには、延縄船の乗組員として對馬に来たのですが、その時、当地の将来性に強く惹かれ、翌年、手押船一隻をもつて単身渡對したのです。いくら魚が多いといつても、無動力船で十分な成果が挙げないことは明らかでしたが、坂東さんは文字通り、齒を食いしぼり、石にかじりついて頑張つております。そして、妻子も呼び寄せて、今では、中古ではあります動力船二隻を持つようになり、最近一キロの発電機も買つて張り切つております。これでようやく、漁船と漁具が揃つたわけで、今後の成果が大いに期待されますが、同氏の頑張りからみて、必ずものにされると信じられます。

平岡安民さんは、同じく淡路津名町佐野の出身です。県外出漁に関心をもつておられる方ならば、既に平岡さんのことは十分御承知のことでしょう。大体この對馬方面に私たちが関心をもつたのは、同氏の出漁がキツカケとなつたもので、いわば對馬出漁の開拓者であり、恩人でもあるわけです。

現在、対馬の豊玉村小綱にその家族と共に居住しておられますが、現状に甘んずることなく、常に創意工夫を重ねて、前進を続けられている姿は、まことに敬服の外ありません

私が訪ねて行つたときは、ちょうど新造船の船下しの前日で、大変忙しい時ではありましたが、同氏の語られる外海出漁についての抱負、体験はまことに貴重なお話しでした。

「漁業協同組合の歌」

全漁連で募集

全漁連では左の趣旨により「漁業協同組合の歌」を募集していますのでふるつて御応募下さい。

○従来ややもすれば暗くなり勝ちな漁村に明朗な空気を与え、明日の生産への希望をもたすために、先づ漁村に生きる人々相互の理解と、融和の精神を歌によつて培養し、漁協を中心とした生産意欲の振起を図る意図から、左の要領によつて「漁業協同組合の歌」を募集しています。

一、歌詞の主眼点（歌詞には特に次の点をもりこむこと）

(1) 協同組合精神を基として、全村挙げて村造りへ前進しよう

とする意気の溢るるもの

(2) 激しい労働にたえ、常に明る

い生活への希望に溢るるもの

(3) 職場に対する親しみと、生活

に対する誇りに溢るるもの

(4) 漁民の心理を強くひきつけ、

永く愛唱されるもの

二、歌詞構成上の注意点

歌詞の構成は作曲との関係より

一項（一番）を四節乃至五節と

し、最長四項（四番）までとする。

応募規定

一、歌詞の主眼点（歌詞には特に次の点をもりこむこと）

(1) 協同組合精神を基として、全村挙げて村造りへ前進しよう

三、応募資格

応募資格は、漁協（漁協役員、組合員及び家族）、漁連、信漁連役員その他水産関係者

（応募作品には住所、所属漁協名、氏名を明記すること）

四、応募締切

昭和三十二年九月三十日

五、入選発表

入選作は漁村経済紙上に登載するとともに、各人に連絡する。

六、入選者に対する表彰

次項審査員の詮衡により入選者三名を決定し、各々に表彰状並びに副賞として次の賞金を贈呈する。

一等一名 賞金一万円

佳作二名 賞金五千円宛

七、審査員

委員長 全漁連会長

委員 水産庁、農林中金の関係者

依頼する作詞、作曲レコード会社の関係者

八、歌詞として採用したものについては、専門家によつて補作することもありうるので諒承願いたし。

版權については、全漁連が所有するものとする。

ラジオ神戸

農漁村の番組

朝6時25分〜40分

【九月】

4日 県外出漁について

撰、播、漁調委 小田 主事

11日 今年のいわしの漁況と海況

水試 浜田 技師

18日 漁協の購買事業

水産課 萩野 技師

24日 魚のビタミンについて

水試 藤沢 技師

25日 「あさくさのり」の養殖について

水試 前田 技師

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇
おわび

七月号の表紙裏と二頁とが印刷の手違で逆になり、読み難かつた事と存じます。つつしんでおわび申し上げます。

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会長 島田文治郎

本所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

購買品は漁連で

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会長 三浦清太郎

本部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

購買品は系統利用

但馬漁業協同組合連合会

会長 西上重弉

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町

兵庫県立水産会館

電⑤8301(事務)
電⑤9563(宿泊)